

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103037
法人名	テルウェル西日本株式会社
事業所名	テルウェル西日本愛松園 グループホーム愛松園
所在地	松山市喜与町1-8-4
自己評価作成日	平成27年 9月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 10 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、松山市内の中心部の閑静な場所に位置し、3階建ての1階が駐車場、2階が2ユニットのグループホームで、開設12年目を迎えており、利用者の皆さんに快適な生活を送っていただける環境づくりを心がけております。また、協力病院でもある総合病院に隣接しており、医療面でもご安心いただけます。なお、当ホームは年間行事として花見、いちご狩り、日帰り旅行、敬老会、紅葉狩り、クリスマス会など室内、屋外ともに利用者楽しんで頂けるよう計画をしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

12年目を迎える事業所は、昨年より職員の異動があり、新たな管理者となって体制は一新された。新入職員が入り、再度、初心に立ち返り理念を土台とした職員教育にも力を入れている。管理者やグループ長を始め、風通しの良い人間関係の形成を目指し、何でも相談しやすい職場環境作りにも力を入れている。その中で働く職員は、利用者の尊厳や自立を大切にしながら、利用者にとって居心地の良い事業所作りに取り組んでいる。また、家族との絆を大切にしており、行事や日常の表情を写した利用者ひとり一人の写真を毎月手紙と一緒に送付したり、退去時には写真集にして家族へ贈るなど喜ばれている。また、入居後10年間、利用者の胃ろうのケア等で通った家族もあり、一日も休まず通えたことに事業所と利用者や家族の信頼関係の高さが伺え、今後は新たな体制での更なる発展に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム愛松園

(ユニット名) ひまわり

記入者(管理者)
氏名 西上佳子

評価完了日 平成 27年 9月 16日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念は職員全員で作っていて介護の指針にしている。新しい職員も多くなっているので今後、理念を職員間で共有し介護の現場で活かしていきたいと思っている。	
			(外部評価) 家庭的で、利用者の尊厳と自立支援を盛り込んだ理念は、利用者が快適に安心して生活できるような指針になっている。新入職員も増えたため、理念について特に職員会やカンファレンスなどで話し合う等し、意識づけをしている。また、介護者のペースになりがちな時には、管理者や職員同士が声を掛け合いながら理念に立ち返るようにし、日々のケアに反映させている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日常的に交流できているとはいえないが、盆踊りへの参加や夏祭りに地域の子供会との交流会を開き親睦を深めている。	
			(外部評価) 地域との連携を図るために、運営推進会議や地域に在住の利用者の家族などから地域活動の情報を集め、接点を持つ工夫をしている。今年の事業所の夏祭りには、民生委員より紹介された地域の子供会の参加があり、新しい繋がりができ、交流の幅を広げることに繋がった。今後は、3階の広いホールを地域活動などに開放していきたいと考えている。	地域連携について、運営推進会議で意見を提案しながら様々な方向から模索されており、今後の活動に期待が持てる。そのためには、3階ホールをどのように地域に活用してもらうか、それをどう情報発信していくかを検討することを期待したい。また、事業所や利用者が地域の一員として一層根付いていくために、例えば地域の学校の行事に参加するなどし、地域住民との距離が近くなり、更なる交流のきっかけとなることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 町内の行事に積極的に参加したり、地元の商店などを利用する際は利用者と一緒にするなどしてグループホームとしての地元を理解を図っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議での情報や意見を取り入れ地域との交流に活かしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は、地域の様々な関係者を交えて有意義な意見交換ができており、それが事業所の運営に反映され、地域との絆作りにも一役担う内容となっている。会議では事業所の課題を提示し、それについて意見をもらうようにしており、事業所のサービス向上に繋がり、会議を上手く運営に活かしている。</p>	<p>運営推進会議では、行政や地域などの関係者と意見交換ができており、有意義な時間となっているようだが、家族の参加がないのが課題と考えられる。会議に家族が参加できるよう例えば、家族会や行事を併せて企画することで、家族の参加も得られる可能性もあり、家族からの運営に参考になる意見を聞くことに繋がり、サービス向上に反映されることを期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 手続き、報告時に連絡や相談をしている。地域包括センターとは運営推進会議などを通じて情報を得たり協力をお願いしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議に市職員や地域包括支援センター職員が参加しており、そこで事業所の実情や取組みを伝えて情報を共有することに加え、普段から市へ相談がある場合には、電話以外にも直接出向いていき顔を合わせて相談するようにしている。また、市から措置入所などの困難事例の相談を受ける間柄にも発展しており、良い関係を保つ努力がなされている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束マニュアルを作成し、職員会議・カンファレンス等で話し合いを持ち全職員が理解するようにしている。日中は施錠せず自由に出入りが出来るようにしている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束に関するマニュアル作成や勉強会を開催することで、身体拘束をしないケアについて考える機会を設け、日頃から職員への意識向上を図っている。過去に、認知症のため他人の部屋へ入りプライバシーを損ねる事例があり、その際には、市や職員、家族と相談し対応をしたこともあり、身体拘束に対する理解は深く、できる限り自由な暮らしを支えるよう努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 常に注意を払い、虐待がないように努めている。言葉使いや支援していく中で職員同士が気をつけて行うようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) リーダーが研修に参加し、職員にフィードバックすることで職員が理解、活用できるようにしているが、新しく入ってきた職員（介護未経験者）に対しては、学ぶ機会があまりないので、今後の課題である。実際に対象の利用者があり相談に応じたこともある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な説明を行い理解、納得を図っている。利用者や家族の疑問についてはその都度、説明し協力をいただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族が来園時には、GH長、管理者がお話しする機会を作っており、また家族会の中で話し合いを持っていただき意見や要望を出してもらっている。家族からの要望は貴重な意見として受け止めて可能な限り運営に反映するよう努めている。	
			(外部評価) 多数の写真の入った手紙や電話で利用者の様子を家族へ伝え、面会時や行事等の際には、職員全員が話しやすい雰囲気を作るなどの工夫をしている。家族会では、家族だけで話す時間を設けることで、家族から意見が出易いよう配慮している。1年間の家族の声をまとめたり、家族と一緒に日帰り旅行をするなど、家族との交流を図りながら、信頼関係の構築に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 様々な判断基準を設け、職場環境・条件が整うよう努めている。 支店長対話（年1～2回）、施設長対話（年2回）を設け、話や意見を聞く場を作っている。 (外部評価) 管理者が他の職員と共にケアを行っているため、職員がいつでも意見や要望が言い易い環境となっている。また、施設長も頻繁に介護現場を訪れるため、管理者で解決できない場合には、ユニットリーダー長にいつでも相談でき、働きやすい職場環境になるよう努めている。現在は新人職員が増え、ユニットの体制など一新し、職員の力が存分に発揮できるよう模索しながら取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 様々な判断基準を設け、職場環境・条件が整うよう努めている。 支店長対話（年1～2回）、施設長対話（年2回）を設け、話や意見を聞く場を作っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 適材適所、職員が年に1回以上研修を受けられるよう努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同業者と勉強会の場や交流の場を持っている。 良いところは積極的に取り入れ、サービスの質の向上につながるよう努力をしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 当グループホームに見学に来られた段階から、しっかりとアセスメントを行い、利用される本人が不安を抱かないよう雰囲気作りに努めている。 開始してからも出来るだけ本人と向き合っ信頼関係を築けるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用に至るまでの過程や苦勞、これからの要望などをお話いただき、少しずつ関係を深めていくようにして、信頼関係が築けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人様・家族様から話を聞いたり、アセスメントをしっかり行い最優先課題について検討し、どういった支援が適切か見極められるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 介護する人、される人、という区分ではなく、ひとつ屋根の下に暮らす家族のつもりで援助している。 コミュニケーションを大事にし、一緒に作業をしてもらうようにしている。(ゴミだし、洗濯、食事作り…利用者と一緒にを行うのが日常的になっている)	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員だけの判断ではなく、常に家族との話し合いを持つようにしており、本人を支えるよう努力している。 行事がある時にはご家族に参加を促し、一緒に参加して楽しんで頂けるように努めている。 また、ご家族が面会に来られた時には、一緒にご本人と写真を撮るなど絆を大切にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居されれば、馴染みの場所へ出かける等の支援はしづらいが、会話の中で昔の話をするなど、忘れられないように努めている。 (外部評価) 会話の中で、馴染みの場所や話題が出れば会話を膨らませたり、道後の足湯などへ外出を利用して行ったりしながら、馴染みの場への関係が途切れないような働きかけに努めている。また、家族と共に親せきや近所の人が訪ねてくるなど、関係が継続できるよう支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとりの状態が違うので、性格や相性などを把握し、良い関係が保てるよう考えている。食堂(リビング)にて過ごされる時には、座席など気を配り、職員も間に入ることにより、孤立されないように気をつけている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了してしまうと関係が薄れてしまうため、利用後も気軽に話が出来る関係づくりに努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居の際に行うアセスメントに加え、入居後はご本人やご家族との会話の中で得られる情報や、日々の生活の中でご本人の思いなどを把握するように努めている。 カンファレンスの時には、本人にあった支援が出来るように話し合い、出来るだけ本人の希望に沿えるように努めている。 (外部評価) 利用者個々の思いや意向については、日頃の会話やご家族から情報を得たりし、本人が何をしたいか等を常に考えながら支援に繋げている。言葉にし辛い思いなどは、利用者の表情から察したり、職員を替えて優しく話しかけたりしながら把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に自宅等を訪問し、生活環境等の情報に基づき、その人がどういった人だったのかを職員全員が把握するようにしている。 入居後はご本人やご家族、友人と会話することで情報収集をしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケース記録におおまかに暮らしぶりを書いている。 いつもとは違う心身の状態・表情・会話などがあった場合は、職員が状況を共有できるよう詳しく記載し、併せて口頭でも申し送るようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) ご家族に要望を聞き、それが介護計画に反映するようにしている。 毎月、職員全員でケアカンファレンスを行っており、担当は作らずそれぞれの立場で利用者への接し方等を発言させ、介護計画やモニタリングへと繋げている。</p> <p>(外部評価) 利用者の思いや意向は、家族から聴取したり、日頃の関わりの中から把握している。それをカンファレンス等で計画作成担当者と共に話し合いながら介護計画を作成し、利用者が何を望んでいるか、どう暮らしていきたいかを職員全員で共有するように努めている。ケアプランの実施状況を青いボールペンで記載するようにし、日々の介護記録のなかでモニタリングを行い、日々のケアに繋げている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 利用者との何気ない会話の内容や、必要に応じ、食事量水分量、バイタルについても個別のケース記録に書き留めている。 朝・夕にその日の状態の申し送りを行うとともに、カンファレンス時に共有し介護計画に反映させている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 状況の変化により生ずる様々なニーズに対して、病院等とも連携し、柔軟に支援・サービスを提供出来るように努めている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地域での行事に参加するようにしている。近くのお店等に買い物に出かけるなど、楽しく過ごしてもらえよう支援している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人や家族の希望により主治医による受診を行い、情報交換しながら良い関係を築いている。必要に応じて眼科、歯科の往診もお願いしている。</p> <p>(外部評価) 隣接の協力病院がかかりつけ医の場合は、看護師が受診支援をしているが、他のかかりつけ医の場合は訪問診療を受けたり、家族による受診支援が行われている。緊急時や心療内科受診などかかりつけ医との連携が必要な場合は、スタッフが同行するようにし、適切な医療が受けられるよう努め、家族の安心に繋がっている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 看護師と介護職員が互いに情報交換し、適切な受診看護を協働して支援している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 安心して入院、治療できるよう、使いなれた食器や身の回りのものを持っていつている。 殆どが近隣の関連病院への入院であり、細めに情報交換を行っている。また、仲の良い利用者と面会に出向いたりしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 医療連携体制により「看取りの指針」を策定している。また、希望者には訪問診療を受けてもらい、その人が望む終末期を迎えることが出来るよう支援している。</p> <p>(外部評価) 重度化や終末期に向けた意向について、入居時や必要に応じて聴取し、心身の変化に応じて随時話し合いを行うようにしている。事業所での看取り経験もあり、その際にはご本人ご家族の安心と納得を得られるように繰り返し話し合いを重ねながら、安心して最期を迎えられるように主治医を含めたチームで支援を行った。胃ろう等、医療行為が必要になった場合には、利用者や家族にとって最善の方法を話し合い、誠実な対応をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生時の対応は、職員全員が把握し適切な対応が出来るように努めている。 応急手当の訓練を実施しており今後も定期的の実施したい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回消防訓練を行っており、災害時に対応出来るようにしている。 また職員会の時に避難場所等についての説明を行っている。 (BCPについては策定済み)	
			(外部評価) 昼夜を想定した防災訓練を実施したり、運営推進会議の中で意見交換をしたりと、近隣住民への理解や事業所の災害対策について考える機会となっている。備蓄を3日分備えていることや防災対策などを、家族会でも説明を行い理解を得ている。建物は耐震構造で、1階には、災害時に無料となる自動販売機も備えている。次回の消防訓練では、AEDの講習を予定しており、全体で防災に対して意識が持てるよう努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 声かけを行う時には、相手の事を尊重した声かけを行っている。利用者への言葉かけについては職員会議などでも話している。 一人ひとり違うのでその人にあつた対応をするよう努めている。	
			(外部評価) 理念にある「尊厳、尊重」を念頭におき、利用者一人ひとりの思いを、アセスメントや日々の会話や表情から把握しながらケアに繋げている。常に声かけやコミュニケーションを大切にし、誇りやプライバシーを損ねないように気をつけている。新人介護職員も入り、利用者が不安感を抱かないよう、再度、職員間で考え共有しながら対応できるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 可能な限り利用者が選択、決定出来るように声かけや質問の仕方を工夫している。何気ない会話からも気持ちや希望を汲み取るように努め、声かけ時には自己決定出来る声かけを行うようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の個性や生活スタイルに合わせ、できるだけ自由に過ごしてもらっている。 また、職員のペースになりそうな場合については、職員会等で意識の統一を図っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 好みの服を着ていただいたり、買いに行ったりしている。行きつけの散髪屋を利用したり、出張サービスを利用したりしている。外出時にはオシャレが出来るように支援している。起床時には髭剃り等忘れないようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの好みを把握し食事を楽しむ事が出来るように努めている。 食事作りから片づけまで一緒に行い、週に2回、利用者の好みや希望を取り入れ、季節を感じる事の出来るメニューにしている。 (外部評価) 朝食は職員がメニューを考え調理し、昼と夜は、メニューに偏りがなく栄養面のバランスを考えた食材の宅配を利用している。週2回は「自由食」の日としており、海鮮丼や栗ごはんなど利用者の好みを取り入れ、食材の買い出し、下ごしらえ、調理など利用者と一緒にっており、食べる楽しみに繋がっている。レインボーハイランドでのバーベキューなど、普段とは違う環境での外食も取り入れ、食の喜びと楽しみが持てるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 日々の食事・水分チェック表を記入するようしており状態把握に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 個々にあった口腔ケアをしており清潔保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者一人ひとりの排泄のリズムを把握し、こまめなトイレの声かけ、誘導を行っている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンのチェックを行い、その人にあった排泄リズムを把握し、排泄介助やトイレ誘導等を行っている。重度化が進行しやむを得ずオムツを使用している利用者もいるが、排泄方法について、カンファレンス等で見直しと検討を行いながら、利用者の尊厳を大切にされた排泄ケアに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 確認できる利用者については、排便時の記録を取り状態把握に努めている。 状況に応じて水分、乳製品の摂取や運動を勧めたり、服薬の調整を図って、出来るだけ自然排便ができるように支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 曜日や時間は特に決めていない。入浴希望があれば、可能な限りその日に入浴を行っている。何時頃入浴したいかを本人に聞くようにして、個々に応じた入浴が出来るように努めている。	
			(外部評価) 利用者の状態や負担を考慮しながら、入浴を実施している。重度化し事業所の浴槽では危険が伴う場合には、併設サービスの特設浴槽を利用しながら快適に入浴できるようにしている。浴室は、脱衣場から浴槽まで渡してある手作りの「すのこ」の長椅子が設置され、介護者も安全に介護できると同時に、利用者が安心して入浴できるように工夫されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの、その時々状態を把握し、その時の状態に応じて居室にて休んで頂いている。 夜間の安眠のためにも日中の過ごし方に配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の用法、用量の処方箋は個別に医療関係ファイルに綴じているが、全て把握出来ないため看護スタッフにまめに相談するようにしている。 また、状態の変化がないか注意している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの個性や力量などを理解しながら個別の支援や共有の楽しみがもてるよう心掛けている。 また、各自の役割のある生活が、押し付けや負担になっていないかなど態度や表情をみながら対応している。 気分転換に近くを散歩に出かけるなどの支援に努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 年に1度バスを借りて、家族も一緒に遠方に出かけている。 又、イチゴ狩りやお花見、紅葉狩りなど外出支援をしている。日々の生活の中でも利用者とのその時々の中での出来る限り対応している。家族にも声をかけ、一緒に外出出来るようにしている。 (外部評価) 職員が利用者の希望や季節の風物詩を取り入れながら、日々の外出行事や年1回の日帰り旅行を企画しており、利用者の気分転換や楽しみとなっている。併設のデイサービスの車を利用することができ、日常の中で利用者の外出希望に添いやすい環境となっている。近隣のスーパーや隣接の協力病院の池の鯉への餌やりなど、日々の外出も大切にし、利用者の意欲や生活の張りに繋がる支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご本人自身がお金を持っている人もおり、外出した時には、そのお金で買い物をされている。ご自身でお金を使えるように努めている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙を出したいとの訴えがあれば近くにポストがあるので一緒に出しに行ったり、電話で家族様等と話出来るように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングだけでなく廊下にも椅子を置きどこにでも座って過ごせるようにしている。 また、落ち着いた雰囲気を出せるよう工夫しているが、天気の悪い日は洗濯物を共有スペースに干し、配慮が必要なところもある。トイレの照明や水道が自動のため混乱する利用者がいる。 (外部評価) 共有空間はリビング兼食堂となっており、そこにはテーブル席とソファ席があり、日中は、食事の下ごしらえをしたりテレビを見たりと、各々が自由に過ごせる空間となっている。また、廊下にはソファが設置され、そこで休んだり自分の時間を過ごしたりするスペースに活用されている。通信カラオケが導入され、リビングや3階のダイルームでカラオケを楽しまれる利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 長い廊下には数個の椅子を置き、自由に座れるようにしている。その中で居心地の良い場所を選び利用者同士が雑談している姿がよくみられ話せる環境を作っている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご本人が使い慣れたものを持参してもらっている。また、昔の写真等を貼り、居心地良く過ごせるように努めている。 (外部評価) 居室は、利用者の認知面や身体機能面に合わせ、ベッドから布団に変更したり、転倒防止のためにクッションフロアに変更するなど、安全面に配慮した工夫が凝らしてある。部屋には、使い慣れた家具を持ち込み、行事や家族と一緒に撮った沢山の写真が飾られて、安心してその人らしい生活が続けられるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 転倒の危険性がある方には居室に段差を作らないようにしたり、床にマットを敷くなどの対応をしている。 少しでも”出来ること”が増やせるよう、また全介助の利用者でも普通の生活が送れるように手すりや浴槽に工夫をしている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103037
法人名	テルウェル西日本株式会社
事業所名	テルウェル西日本愛松園 グループホーム愛松園
所在地	松山市喜与町1-8-4
自己評価作成日	平成 27年 9月 16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27年 10月 2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、松山市内の中心部の閑静な場所に位置し、3階建ての1階が駐車場、2階が2ユニットのグループホームで、開設12年目を迎えており、利用者の皆さんに快適な生活を送っていただける環境づくりを心がけております。また、協力病院でもある総合病院に隣接しており、医療面でもご安心いただけます。なお、当ホームは年間行事として花見、いちご狩り、日帰り旅行、敬老会、紅葉狩り、クリスマス会など室内、屋外ともに利用者楽しんで頂けるよう計画をしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

12年目を迎える事業所は、昨年より職員の異動があり、新たな管理者となって体制は一新された。新入職員が入り、再度、初心に立ち返り理念を土台とした職員教育にも力を入れている。管理者やグループ長を始め、風通しの良い人間関係の形成を目指し、何でも相談しやすい職場環境作りにも力を入れている。その中で働く職員は、利用者の尊厳や自立を大切にしながら、利用者にとって居心地の良い事業所作りに取り組んでいる。また、家族との絆を大切にしており、行事や日常の表情を写した利用者ひとり一人の写真を毎月手紙と一緒に送付したり、退去時には写真集にして家族へ贈るなど喜ばれている。また、入居後10年間、利用者の胃ろうのケア等で通った家族もあり、一日も休まず通えたことに事業所と利用者や家族の信頼関係の高さが伺え、今後は新たな体制での更なる発展に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	テルウェル西日本 グループホーム愛称園
(ユニット名)	みかん
記入者(管理者)	
氏名	西上 佳子
評価完了日	平成 27 年 9 月 16 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念は職員全員で作っていて介護の指針にしている。新しい職員も多くなっているので今後、理念を職員間で共有し介護の現場で活かしていきたいと思っている。</p> <p>(外部評価) 家庭的で、利用者の尊厳と自立支援を盛り込んだ理念は、利用者が快適に安心して生活できるような指針になっている。新入職員も増えたため、理念について特に職員会やカンファレンスなどで話し合う等し、意識づけをしている。また、介護者のペースになりがちな時には、管理者や職員同士が声を掛け合いながら理念に立ち返るようにし、日々のケアに反映させている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 日常的に交流できているとはいえないが、盆踊りへの参加や夏祭りに地域の子供会との交流会を開き親睦を深めている。</p> <p>(外部評価) 地域との連携を図るために、運営推進会議や地域に在住の利用者の家族などから地域活動の情報を集め、接点を持つ工夫をしている。今年の事業所の夏祭りには、民生委員より紹介された地域の子供会の参加があり、新しい繋がりができ、交流の幅を広げることに繋がった。今後は、3階の広いホールを地域活動などに開放していきたいと考えている。</p>	地域連携について、運営推進会議で意見を提案しながら様々な方向から模索されており、今後の活動に期待が持てる。そのためには、3階ホールをどのように地域に活用してもらうか、それをどう情報発信していくかを検討することを期待したい。また、事業所や利用者が地域の一員として一層根付いていくために、例えば地域の学校の行事に参加するなどし、地域住民との距離が近くなり、更なる交流のきっかけとなることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 町内の行事に積極的に参加したり、地元の商店などを利用する際は利用者と一緒に行くなどしてグループホームとしての地元の理解を図っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議での情報や意見を取り入れ地域との交流に活かしている。	運営推進会議では、行政や地域などの関係者と意見交換ができており、有意義な時間となっているようだが、家族の参加がないのが課題と考えられる。会議に家族が参加できるよう例えば、家族会や行事を併せて企画することで、家族の参加も得られる可能性もあり、家族からの運営に参考になる意見を聞くことに繋がり、サービス向上に反映されることを期待したい。
			(外部評価) 運営推進会議は、地域の様々な関係者を交えて有意義な意見交換ができており、それが事業所の運営に反映され、地域との絆作りにも一役担う内容となっている。会議では事業所の課題を提示し、それについて意見をもらうようにしており、事業所のサービス向上に繋がり、会議を上手く運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 手続き、報告時に連絡や相談をしている。地域包括センターとは運営推進会議などを通じて情報を得たり協力をお願いしている。	
			(外部評価) 運営推進会議に市職員や地域包括支援センター職員が参加しており、そこで事業所の実情や取組みを伝えて情報を共有することに加え、普段から市へ相談がある場合には、電話以外にも直接出向いていき顔を合わせて相談するようにしている。また、市から措置入所などの困難事例の相談を受ける間柄にも発展しており、良い関係を保つ努力がなされている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束マニュアルを作成し、職員会議・カンファレンス等で話し合いを持ち全職員が理解するようにしている。日中は施錠せず自由に出入りが出来るようにしている。	
			(外部評価) 身体拘束に関するマニュアル作成や勉強会を開催することで、身体拘束をしないケアについて考える機会を設け、日頃から職員への意識向上を図っている。過去に、認知症のため他人の部屋へ入りプライバシーを損ねる事例があり、その際には、市や職員、家族と相談し対応をしたこともあり、身体拘束に対する理解は深く、できる限り自由な暮らしを支えるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 常に注意を払い、虐待がないように努めている。 言葉使いや支援していく中で職員同士が気をつけて行うようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) リーダーが研修に参加し、職員にフィードバックすることで職員が理解、活用できるようにしているが、新しく入ってきた職員（介護未経験者）に対しては、学ぶ機会があまりないので、今後の課題である。 実際に対象の利用者があり相談に応じたこともある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な説明を行い理解、納得を図っている。利用者や家族の疑問についてはその都度、説明し協力をいただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族が来園時には、GH長、管理者がお話しする機会を作っており、また家族会の中で話し合いを持っていただき意見や要望を出してもらっている。 家族からの要望は貴重な意見として受け止めて可能な限り運営に反映するよう努めている。	
			(外部評価) 多数の写真の入った手紙や電話で利用者の様子を家族へ伝え、面会時や行事等の際には、職員全員が話しやすい雰囲気を作るなどの工夫をしている。家族会では、家族だけで話す時間を設けることで、家族から意見が出易いよう配慮している。1年間の家族の声をまとめたり、家族と一緒に日帰り旅行をするなど、家族との交流を図りながら、信頼関係の構築に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会議等で意見を聞き、可能な限り反映できる努力をしている。 (外部評価) 管理者が他の職員と共にケアを行っているため、職員がいつでも意見や要望が言い易い環境となっている。また、施設長も頻繁に介護現場を訪れるため、管理者で解決できない場合には、ユニットリーダー長にいつでも相談でき、働きやすい職場環境になるよう努めている。現在は新人職員が増え、ユニットの体制など一新し、職員の力が存分に発揮できるよう模索しながら取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 様々な判断基準を設け、職場環境・条件が整うよう努めている。 支店長対話（年1～2回）、施設長対話（年2回）を設け、話や意見を聞く場を作っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 適材適所、職員が年に1回以上研修を受けられるよう努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同業者と勉強会の場や交流の場を持っている。 良いところは積極的に取り入れ、サービスの質の向上につながるよう努力をしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 当グループホームに見学に来られた段階から、しっかりとアセスメントを行い、利用される本人が不安を抱かないよう雰囲気作りに努めている。 開始してからも出来るだけ本人と向き合っ信頼関係を築けるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用に至るまでの過程や苦勞、これからの要望などをお話いただき、少しずつ関係を深めていくようにして、信頼関係が築けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人様・家族様から話を聞いたり、アセスメントをしっかり行い最優先課題について検討し、どういった支援が適切か見極められるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 介護する人、される人、という区分ではなく、ひとつ屋根の下に暮らす家族のつもりで援助している。 コミュニケーションを大事にし、一緒に作業をしてもらうようにしている。(ゴミだし、洗濯、食事作り…利用者と一緒に行うのが日常的になっている)	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員だけの判断ではなく、常に家族との話し合いを持つようにしており、本人を支えるよう努力している。 行事がある時にはご家族に参加を促し、一緒に参加して楽しんで頂けるように努めている。 また、ご家族が面会に来られた時には、一緒にご本人と写真を撮るなど絆を大切にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居されれば、馴染みの場所へ出かける等の支援はしづらいが、会話の中で昔の話をするなど、忘れられないように努めている。 (外部評価) 会話の中で、馴染みの場所や話題が出れば会話を膨らませたり、道後の足湯などへ外出を利用して行ったりしながら、馴染みの場への関係が途切れないような働きかけに努めている。また、家族と共に親せきや近所の人が訪ねてくるなど、関係が継続できるよう支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとりの状態が違うので、性格や相性などを把握し、良い関係が保てるよう考えている。食堂(リビング)にて過ごされる時には、座席など気を配り、職員も間に入ることにより、孤立されないように気をつけている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了してしまうと関係が薄れてしまうため、利用後も気軽に話が出来る関係づくりに努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居の際に行うアセスメントに加え、入居後はご本人やご家族との会話の中で得られる情報や、日々の生活の中でご本人の思いなどを把握するように努めている。カンファレンスの時には、本人にあった支援が出来るように話し合い、出来るだけ本人の希望に沿えるように努めている。	
			(外部評価) 利用者個々の思いや意向については、日頃の会話やご家族から情報を得たりし、本人が何をしたいか等を常に考えながら支援に繋げている。言葉にし辛い思いなどは、利用者の表情から察したり、職員を替えて優しく話しかけたりしながら把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に自宅等を訪問し、生活環境等の情報に基づき、その人がどういった人だったのかを職員全員が把握するようにしている。 入居後はご本人やご家族、友人と会話をすることで情報収集をしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケース記録におおまかに暮らしぶりを書いている。 いつもとは違う心身の状態・表情・会話などがあった場合は、職員が状況を共有できるよう詳しく記載し、併せて口頭でも申し送るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) ご家族に要望を聞き、それが介護計画に反映するようにしている。 毎月、職員全員でケアカンファレンスを行っており、担当は作らずそれぞれの立場で利用者への接し方等を発言させ、介護計画やモニタリングへと繋げている。</p> <p>(外部評価) 利用者の思いや意向は、家族から聴取したり、日頃の関わりの中から把握している。それをカンファレンス等で計画作成担当者と共に話し合いながら介護計画を作成し、利用者が何を望んでいるか、どう暮らしていきたいかを職員全員で共有するように努めている。ケアプランの実施状況を青いボールペンで記載するようにし、日々の介護記録のなかでモニタリングを行い、日々のケアに繋げている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 利用者との何気ない会話の内容や、必要に応じ、食事量水分量、バイタルについても個別のケース記録に書き留めている。 朝・夕にその日の状態の申し送りを行うとともに、カンファレンス時に共有し介護計画に反映させている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 状況の変化により生ずる様々なニーズに対して、病院等とも連携し、柔軟に支援・サービスを提供出来るように努めている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地域での行事に参加するようにしている。近くのお店等にも買い物に出かけるなど、楽しく過ごしてもらえるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人や家族の希望により主治医による受診を行い、情報交換 しながら良い関係を築いている。必要に応じて眼科、歯科の 往診をお願いしている。	
			(外部評価) 隣接の協力病院がかかりつけ医の場合は、看護師が受診支援 をしているが、他のかかりつけ医の場合は訪問診療を受けたり、 家族による受診支援が行われている。緊急時や心療内科 受診などかかりつけ医との連携が必要な場合は、スタッフが 同行するようにし、適切な医療が受けられるよう努め、家族 の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師と介護職員が互いに情報交換し、適切な受診看護を協 働して支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 安心して入院、治療できるよう、使いなれた食器や身の回り のものを持っていつている。 殆どが近隣の関連病院への入院であり、細めに情報交換を 行っている。また、仲の良い利用者と面会に出向いたりして いる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 医療連携体制により「看取りの指針」を策定している。 また、希望者には訪問診療を受けてもらい、その人が望む終 末期を迎えることが出来るよう支援している。	
			(外部評価) 重度化や終末期に向けた意向について、入居時や必要に応じて 聴取し、心身の変化に応じて随時話し合いを行うようにし ている。事業所での看取り経験もあり、その際にはご本人ご 家族の安心と納得を得られるように繰り返し話し合いを重ね ながら、安心して最期を迎えられるように主治医を含めた チームで支援を行った。胃ろう等、医療行為が必要になった 場合には、利用者や家族にとって最善の方法を話し合い、誠 実な対応をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生時の対応は、職員全員が把握し適切な対応が出来るように努めている。 応急手当の訓練を実施しており今後も定期的の実施したい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回消防訓練を行っており、災害時に対応出来るようにしている。 また職員会の時に避難場所等についての説明を行っている。 (BCPについては策定済み)	
			(外部評価) 昼夜を想定した防災訓練を実施したり、運営推進会議の中で意見交換をしたりと、近隣住民への理解や事業所の災害対策について考える機会となっている。備蓄を3日分備えていることや防災対策などを、家族会でも説明を行い理解を得ている。建物は耐震構造で、1階には、災害時に無料となる自動販売機も備えている。次回の消防訓練では、AEDの講習を予定しており、全体で防災に対して意識が持てるよう努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 声かけを行う時には、相手の事を尊重した声かけを行っている。利用者への言葉かけについては職員会議などでも話している。 一人ひとり違うのでその人にあつた対応をするよう努めている。	
			(外部評価) 理念にある「尊厳、尊重」を念頭におき、利用者一人ひとりの思いを、アセスメントや日々の会話や表情から把握しながらケアに繋げている。常に声かけやコミュニケーションを大切にし、誇りやプライバシーを損ねないように気をつけている。新人介護職員も入り、利用者が不安感を抱かないよう、再度、職員間で考え共有しながら対応できるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 可能な限り利用者が選択、決定出来るように声かけや質問の仕方を工夫している。何気ない会話からも気持ちや希望を汲み取るように努め、声かけ時には自己決定出来る声かけを行うようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の個性や生活スタイルに合わせ、できるだけ自由に過ごしてもらっている。 また、職員のペースになりそうな場合については、職員会等で意識の統一を図っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 好みの服を着ていただいたり、買いに行ったりしている。行きつけの散髪屋を利用したり、出張サービスを利用したりしている。外出時にはオシャレが出来るように支援している。起床時には髭剃り等忘れないようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの好みを把握し食事を楽しむ事が出来るように努めている。 食事作りから片づけまで一緒に行い、週に2回、利用者の好みや希望を取り入れ、季節を感じる事の出来るメニューにしている。 (外部評価) 朝食は職員がメニューを考え調理し、昼と夜は、メニューに偏りがなく栄養面のバランスを考えた食材の宅配を利用している。週2回は「自由食」の日としており、海鮮丼や栗ごはんなど利用者の好みを取り入れ、食材の買い出し、下ごしらえ、調理など利用者と一緒にっており、食べる楽しみに繋がっている。レインボーハイランドでのバーベキューなど、普段とは違う環境での外食も取り入れ、食の喜びと楽しみが持てるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養、水分には気を配っている。摂りにくい場合はパンや果物にかえるなど工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 個々にあった口腔ケアをしており清潔保持に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者一人ひとりの排泄のリズムを把握し、こまめなトイレの声かけ、誘導を行っている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンのチェックを行い、その人にあつた排泄リズムを把握し、排泄介助やトイレ誘導等を行っている。重度化が進行しやむを得ずオムツを使用している利用者もいるが、排泄方法について、カンファレンス等で見直しと検討を行いながら、利用者の尊厳を大切にされた排泄ケアに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 確認できる利用者については、排便時の記録を取り状態把握に努めている。 状況に応じて水分、乳製品の摂取や運動を勧めたり、服薬の調整を図って、出来るだけ自然排便ができるように支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 曜日や時間は特に決めていない。入浴希望があれば、可能な限りその日に入浴を行っている。何時頃入浴したいかを本人に聞くようにして、個々に応じた入浴が出来るように努めている。	
			(外部評価) 利用者の状態や負担を考慮しながら、入浴を実施している。重度化し事業所の浴槽では危険が伴う場合には、併設デイサービスの特殊浴槽を利用しながら快適に入浴できるようにしている。浴室は、脱衣場から浴槽まで渡してある手作りの「すのこ」の長椅子が設置され、介護者も安全に介護できると同時に、利用者が安心して入浴できるように工夫されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの、その時々状態を把握し、その時の状態に応じて居室にて休んで頂いている。 夜間の安眠のためにも日中の過ごし方に配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の用法、用量の処方箋は個別に医療関係ファイルに綴じているが、全て把握出来ないため看護スタッフにまめに相談するようにしている。 また、状態の変化がないか注意している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの個性や力量などを理解しながら個別の支援や共有の楽しみがもてるよう心掛けている。 また、各自の役割のある生活が、押し付けや負担になっていないかなど態度や表情をみながら対応している。 気分転換に近くを散歩に出かけるなどの支援に努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 年に1度バスを借りて、家族も一緒に遠方に出かけている。 又、イチゴ狩りやお花見、紅葉狩りなど外出支援をしている。日々の生活の中でも利用者とのその時々の中で出来る限り対応している。家族にも声をかけ、一緒に外出出来るようにしている。 (外部評価) 職員が利用者の希望や季節の風物詩を取り入れながら、日々の外出行事や年1回の日帰り旅行を企画しており、利用者の気分転換や楽しみとなっている。併設のデイサービスの車を利用することができ、日常の中で利用者の外出希望に添いやすい環境となっている。近隣のスーパーや隣接の協力病院の池の鯉への餌やりなど、日々の外出も大切にし、利用者の意欲や生活の張りに繋がる支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご本人自身がお金を持っている人もおり、外出した時には、そのお金で買い物をされている。ご自身でお金を使えるように努めている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族から電話があった際には代わったり、思いついた時にこちらから電話をしたりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングだけでなく廊下にも椅子を置きどこにでも座って過ごせるようにしている。 また、落ち着いた雰囲気を出せるよう工夫しているが、天気の悪い日は洗濯物を共有スペースに干し、配慮が必要なところもある。トイレの照明や水道が自動のため混乱する利用者がいる。 (外部評価) 共有空間はリビング兼食堂となっており、そこにはテーブル席とソファ席があり、日中は、食事の下ごしらえをしたりテレビを見たりと、各々が自由に過ごせる空間となっている。また、廊下にはソファが設置され、そこで休んだり自分の時間を過ごしたりするスペースに活用されている。通信カラオケが導入され、リビングや3階のダイルームでカラオケを楽しまれる利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 長い廊下には数個の椅子を置き、自由に座れるようにしている。その中で居心地の良い場所を選び利用者同士が雑談している姿がよくみられ話せる環境を作っている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご本人が使い慣れたものを持参してもらっている。また、昔の写真等を貼り、居心地良く過ごせるように努めている。 (外部評価) 居室は、利用者の認知面や身体機能面に合わせ、ベッドから布団に変更したり、転倒防止のためにクッションフロアに変更するなど、安全面に配慮した工夫が凝らしてある。部屋には、使い慣れた家具を持ち込み、行事や家族と一緒に撮った沢山の写真が飾られて、安心してその人らしい生活が続けられるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 転倒の危険性がある方には居室に段差を作らないようにしたり、床にマットを敷くなどの対応をしている。 少しでも”出来ること”が増やせるよう、また全介助の利用者でも普通の生活が送れるように手すりや浴槽に工夫をしている。	